

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491000057		
法人名	社会福祉法人 一心会		
事業所名	グループホーム やまが苑(東ユニット)		
所在地	大分県杵築市山香町大字野原1405番地の1		
自己評価作成日	平成22年1月20日	評価結果市町村受理日	平成22年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	情報の公表対象事業所でないため、別添「基本情報」をご覧ください。
----------	----------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成22年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな自然環境に恵まれ、苑庭では畑や花壇に野菜等植え収穫を楽しみ、漬物や食事の材料として利用しています。近隣に幼稚園・保育園・併設の養護老人ホームがあり、地域の夏祭りや行事も互いに協力し合い、交流を図っています。レクレーションでは、音楽教室・健康体操・生け花・法話等行い日常生活のリフレッシュを図っています。近隣の散歩のほか毎月足湯や外食・観劇等ドライブに出かけ気分転換を心がけています。また、医療面では、協力病院に診療料が多いのも安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域での行事や催し物は積極的に参加し、事業所で出来ることは協力している。地域での清掃活動なども毎回参加し、交流を深めている。
 ・家族会は年4回開催し、1回は家族と合同で外出し、温泉や外食への支援を行い、事業所との関わりや理解、意見や要望などが聞ける機会を作っている。地域への還元のため、以前開催していた介護者教室を再開する予定にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別に地域密着型理念について職員全員で見直し、理解し支援につなげている。	事業所独自の理念を職員全員で作し、実践している。新人職員に対しても理念の持つ意味を説明し、理解してもらいながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園、幼稚園、学校、地域の行事等に参加し、文化祭に作品を出展している。又、散歩や買物時には、地域の人達と挨拶を交わしたり、話をしている。	地域の様々な行事への参加、事業所で出来ることを協力しながら、利用者や地域の方が交流出来る場作りをしている。地区の清掃活動も毎回参加している。回覧板などに広報誌を掲載してもらい、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学、高校の実習生の受け入れを積極的に行っている。介護教室を再開し、地域の人達と認知症の勉強会を行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価を行った結果、改善に向けて検討した内容等報告している。改善内容についての意見等いただきサービスの向上に努めている。	事業所の報告だけにとどまらず、意見や要望などを検討し、実践に繋げている。結果についても報告している。「老人会の人を委員に加えたらどうか」との意見があり、今後、参加する予定になっている。	定期的に開催予定であったが、法人の変更やインフルエンザなどの予防対策もあり、開催出来なかった月がある。市の担当者には報告しているが、今後は日時などの検討を行い、定期的な開催が出来るように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、常に情報交換、相談を行っている。更新認定調査の折に、担当者へケアの取り組みについて話し合っている。	様々な機会を利用し、報告や相談をしている。実践の取り組み、今年度の運営推進会議などについても協議している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ひとり一人のその日の状態を職員が把握し、安全面に配慮して、鍵をかけずに自由な暮らしを支えるようにしている。	自由に入出入り出来るようにしている。月1回の会議でも話し合いを重ね、職員が共通認識を持ち、ケアに取り組むようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員間で注意し、特に心理的虐待を行わないように努めている。また、会議の折に上司より呼びかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の利用者があんしんサポートセンターを活用しており、職員は実務の一貫を知ることができる。研修や会議で学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書に添って詳細に説明し、不安や疑問点についても気兼ねなく相談できるよう配慮している。状態の変化等により契約解除に至る場合は、本人・家族と対応方針を相談している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望を出してもらう機会として、毎月利用者による井戸端会議を行い出された意見を検討し、日々の支援に反映させている。	毎月文書で近況報告を行っている。家族モニタリング台帳を作成している。アンケートによる意見や要望なども検討し、実施している。家族の面会も頻回にあり、話しやすい雰囲気作りに努めている。出された意見や要望は、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、チーム会議で意見や提案を引き出すようにしている。出された提案等は早急に検討し、実践している。	全体会議・チーム会議・スタッフ会議をそれぞれ月1回開催し、意見交換や課題解決に取り組み、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を年に数回行っているが、不満や苦情は、言いがたい部分も多いため把握し切れてない可能性もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修になるべく多くの職員が受講できるように心がけている。研修報告は、毎月の会議で発表してもらい、研修報告は回覧で全職員が閲覧できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡会やグループホーム連絡会で事例検討や交換実習を設けることによりサービスの質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況や本人、家族の不安や困っていることを把握するよう努め、利用者によっては通所で利用してもらい安心してもらうことにより関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、求めているものを十分に傾聴し、理解し不安等を解消され安心できるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業者のサービスにつなげる等の支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる能力を維持し、職員と共に調理や洗濯干し等お互いが協働しながら生活できるよう声かけや場面づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を来訪時や近況報告書(毎月担当職員送付)で詳細に伝えることで、家族と職員の思いが重なり、一緒に支えていくための協力関係が築かれている。また、外出行事、レクリエーションにも参加され共に楽しんでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より利用している理・美容院へ行き店主との会話を楽しみにしている。	古くからの友人による面会の継続をしている。買い物やドライブなどの機会を利用して、馴染みの場所、趣味の活動の支援、ふるさと訪問などを行い、継続的な関わりの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や能力、役割等職員間で情報を共有し把握している。心身の状態や気分により日々変化することもある為、きめ細かく見守り関係が円滑になるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族の相談にのり、長期入院の利用者には安心できるよう日々面会に行ったり、洗濯物を引き受けて関係をつなげている。他施設に移られる場合、支援状況等提供し、機会を作って訪問等行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりにおいて声かけや本人の言葉や表情等から把握に努めている。意思の疎通が困難な利用者には、関係者から情報を得たり、本人の立場に立った支援を会議等で検討している。	出来事ファイルを個別に作り、言葉や行動、その時の表情や状況などを詳細に記入し、思いや意向の把握に努め、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時、本人や家族、関係者から情報を収集し、自宅での生活環境も見せてもらい把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態や生活リズムの把握に努めている。何ができるかに視点をおき、能力を発揮できるように支援しているがまだ十分とはいえない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望をくみ、居室担当職員のモニタリングからカンファレンスで意見交換を行い生活支援計画につなげている。また、状態変化等あった場合はその都度担当者会議を行い変更している。	定期的カンファレンス・モニタリングを行い、出来事ファイルなどを踏まえ、現状に即した計画を作成している。家族とは面会の都度、話し合っている。遠方の家族には、計画書を送付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化や本人の言葉等は個々のケア記録に記載している。気づきやケアの実践方法が変わった場合は伝達・気づきノートで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師による健康管理、協力病院への受診送迎また、手術の際には、利用者に一晩付き添う等必要に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や体調に応じて、訪問理・美容を活用している。併設施設に生け花や法話を聞きに行き交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院や利用者のかかりつけ医での医療を受けられるよう支援している。また、訪問診療に来てもらうこともあり、複数の医療機関と関係を結んでいる。	市内・市外に関わらず、それぞれのかかりつけ医を受診し、適切な医療を受けられるように支援をしている。入院などの場合は、職員が順番に付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。看護職員が不在の時は、併設施設の看護職員の協力を得て相談援助も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関に利用者の支援に関する情報を提供し、面会時に医師や看護師より情報交換や相談にのってもらっている。家族とも連絡を密にし、速やかな退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者と家族の安心と納得を得られるよう話し合いを行い、また、医師・看護師等とも状態変化に対する指針を定め、職員全員で方針を共有している。	看取り指針を作成している。契約時に確認し、説明している。状況に変化があった場合も再度確認している。職員は、看取りに関しての支援を共有している。主治医の指示で入院になることも多いが、状況に応じ、病院へ職員が順番に泊まりこみ、支援することもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が普通救命講習を受講し、対応できるようにしている。夜勤時の緊急対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力をえて利用者と共に避難、消火、通報訓練を実施している。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。	区長なども参加し、避難訓練を実施している。年2回は、併設の施設と合同での訓練もしている。近隣に高齢者も多いため、備蓄なども十分に揃え、災害時に地域に協力出来るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わり方の留意点として掲げているが本人の気持ちを大切に声かけがまだ不十分である。	全体会議で関わり方の勉強会を行ったり、職員休憩室に「利用者に関わる上での留意点」を掲示し、意識付けをしている。気になるときは、お互いに注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて、本人が応えやすく、選びやすいような働きかけを行っている。意思表示が困難な利用者には、表情を読みとったり、職員の動きから理解してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけているが食事、入浴、行事等職員の都合で決めていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後は化粧品を用意し、おしゃれを楽しめるようにしている。本人の馴染みの美容院で希望にあわせたカットや毛染めをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を書いてもらうことにより食事の楽しみ、雰囲気づくりを大切にしている。利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にすることが大切であり前向きな意思や気持ちを引き出すような声かけを行っている。	盛り付けやつぎ分けなど、出来ることをしてもらっている。一緒にすることで食事が楽しみなものになるように支援している。月1回は職員、栄養士、利用者が参加する給食会議で要望などを聞いている。週に1回、利用者がおやつを作れるよう工夫している。中庭での食事などで気分転換を図ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量は記録しており状態に応じて食べやすいものや本人の好きなものを出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて食後は洗面所に行っている。ガーゼを使用する等一人ひとりの力に応じた歯磨きの支援をしている。また、食事前に嚥下訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	習慣や時間を把握しトイレ誘導することでトイレで排泄できるように支援している。日中は、できるだけリハビリパンツの使用をやめ綿ショーツと尿とりパットを使用するよう努めている。	排泄チェック表で個別のパターンを把握し、自立に向けた支援をしている。声かけについてもプライバシーを損ねないように、個々に応じた支援をしている。日中は出来る限り自分で排泄するように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として、乳製品や柑橘ジュース等を購入し摂取している。ラジオ体操や散歩等で適度に体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ希望に添った時間や利用者のタイミングを図りながら行っている。健康状態に応じて隔日にしている方、足浴、シャワー浴、清拭の方もいる。季節によっては、ざぼん、菖蒲、入浴剤で楽しんでもらっている。	毎日、入浴できるように配慮し、希望があれば、夜間や早朝入浴など好きな時間に入れるように努めている。入りたがらない方に対しては、他利用者に協力してもらい誘ってもらうなど、スムーズな入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを図っている。寝付けない時は、飲み物を用意し、一緒に会話する等の配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬ケースに処方内容を貼り職員全員に分かるようにしている。薬剤の形状を飲み易い形にもらう等医師や薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の経験や趣味を把握し、一人ひとりの力を発揮できそうな仕事を頼み職員と一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の体調や気分に応じ短時間でも戸外に出よう心がけている。近くの足湯や外食お弁当を持ってドライブに出かける等積極的に取り組んでいる。	自由に戸外へ出られるように配慮している。天気の良い日は事業所の周りを散策したり、近隣まで散歩に出かけたりしている。利用者の希望を聞き足湯に出かけたり、家族と協力して遠出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を所持している利用者もいるがトラブルにならないよう事業所で殆ど管理している。買物時は、個々の財布より支払うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙のやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるよう四季折々の置物等飾り、利用者が作成した作品や写真を掲示している。また、日当たりのよい窓辺にソファを配置しゆっくりくつろげるように心がけている。	廊下やホールに季節感のある物を飾っている。テーブルやソファの配置も利用者が使いやすいように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や中庭にベンチを置き一人で過ごしたり、仲のよい利用者同士でくつろげるようにソファ等を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や仏壇を置いたり、利用者と相談しながら使いやすいようにタンスやテーブルを配置し居心地よく過ごせるよう配慮している。	利用者が希望する物や馴染みの物を置き、本人が安心して生活出来るように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせてトイレや浴室に立位バーを取り付けている。よく分かるよう表示は、大きくして貼っている。		